

都道府県名：宮城県	市町村名：仙台市・利府町・富谷町
1. 活動名 もりもり教室 等	
<p>2. 取組の背景、目的</p> <p>平成 18 年 4 月より「宮城県県民の森」の指定管理者として NPO 法人宮城県森林インストラクター協会が受託し、県民の森管理事業の一環として本教室を開催している。本活動は協会員のインストラクターとしてのスキルアップの実践の場として、県民の森のフィールドを借りる形で平成 12 年に開始した協会員有志による「青少年の森自然体験自主企画活動」に端を発し、その後「みやぎもりもり教室実行委員会」を結成し親子共々に楽しめる種々の自然体験企画を実施してきた。県民の森管理受託を機会に、施設への集客向上の一環として自然観察系企画の他にも会員の得意分野を生かした企画の多角化に努め、周年を通じ週末に教室を開催している。</p>	
3. 実施主体 特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
<p>4. 取組の概要</p> <p>県民の森に付属する青少年の森を会場に平成 22 年度には 25 回の教室を開催し、会員スタッフ参加は延べ 186 名、一般親子の参加は延べ 918 名で、会費は 150 円／1 人を基本に必要なに応じ材料費を加算している。プログラムは季節に応じた自然観察の他に染め物・畑づくり・ビオトープづくり・キノコ植菌・各種ネイチャークラフトやフラワーデザイン等のレクリエーション的要素もふんだんに取り入れ親子の交流をはかっている。なお、一般成人向けの本格的な自然観察会として別途に「県民の森自然観察」も実施している。</p>	
5. 支援事業 該当なし	
<p>6. 取組等についての成果や課題</p> <p>県民の森管理受託以前からの協会自主活動の試行錯誤と、受託管理後の容易なフィールド利用とが相俟って企画の充実が図られた結果、参加者もリピーターを含めて増加傾向にある。但し、活動スタッフの限定化や、必要経費の確保などに改善の余地も残している。</p>	

森林環境教育の活動事例写真添付用紙

活動名： もりもり教室



県民の森内の湿地植物園に移動して、水生生物の採集と観察を行った。子どもたちは自由に網を持って小さな魚やヤゴ・貝類などを採取し、小さな小川にもさまざまな生き物が暮らしていることを確認し、同時にサンショウウオなどの希少生物の話も聞いて、生き物を大切にするためには多様な森林を守っていかなければならないことを認識した。自然への愛着と生物多様性の保全について実体験に基づいて学習するプログラムである。



冬場の広葉樹林と針葉樹林を観察し、里山の活用と林業について学習したあと、支障木を選んで除伐作業を体験し、持ち帰ってきて薪割り作業を実施した。小さい頃から、森林の管理や育林意識、適度に利用されることによって美しい保たれてきた里山について勉強し、除伐した木々も有効活用する知恵を身につけ、田舎暮らしを体験してもらうことにより、自然環境にやさしい生活とはどのようなものかを感じてもらおうプログラムである。



小川の水量が減少し、水生生物が減少したため、間伐材等を利用して小川を堰きとめ、水生生物のビオトープづくりを体験させた。間伐材の有効活用と、生物多様性の維持に原体験から関わり、カケヤや鋏などの道具を考えながら使うことによりものづくりや資材の有効活用について学び、ビオトープづくりをすることによって、自然界に暮ら生き物たちへの愛着が生まれ、自然環境に優しい人間の育成を図るプログラムである。



火事の現場や不法投棄の実態を見せた上で、火の用心や不法投棄防止の啓発看板を作成してもらった。下塗りと文字は事前に入れておき、参加した子どもたちには、訴えたいことが一目で分かる楽しい絵を中心に描いてもらった。マナーの悪い森林来場者がいまだに跡を絶たず、地域みんなで協力して山林火災や不法投棄を防止していかなければならないということを小さい頃から学び、人間性と森林保全の考え方を学ぶプログラムである。